（様式第1号）

指定管理者制度導入施設の管理運営に関する評価票（評価対象年度：令和7年度）

施　設　の　名　称	宮城県仙南総合プール
指 定 管 理 者 の 名 称	セントラルスポーツ株式会社
施 設 所 管 部 課 (室)	企画部スポーツ振興課

1．当該施設の管理形態の推移【施設所管課記入】

期　　間	管理形態	指定管理者（管理受託者）の名称	摘 要
平成24年4月 ～ 平成29年3月	指定管理者	陽光セントラル共同企業体	
平成29年4月 ～ 令和4年3月	指定管理者	セントラルスポーツ株式会社	
令和4年4月 ～ 令和9年3月	指定管理者	セントラルスポーツ株式会社	

※ 管理形態欄には、直営・管理委託・指定管理者の別を記入

2．現指定管理者の概要【施設所管課記入】

指 定 管 理 者 の 名 称	名　称	セントラルスポーツ株式会社
	所在地	東京都中央区新川一丁目21-2茅場町タワー2階
指　定　期　間	令和4年4月1日 ～ 令和9年3月31日 （5か年）	
募　集　方　法	■ 公募　□ 非公募	

3．施設の概要【施設所管課記入】

施　設　の　名　称	宮城県仙南総合プール（ヒルズ県南総合プール）	
所　在　地	柴田郡柴田町大字本船迫十八津入地内	
設　置　年　月	平成11年4月	
根　拠　条　例　等	総合運動場条例	
設　置　目　的	スポーツ普及振興を図り、もって県民の心身の健全な発達と福祉の増進に資するため	
施　設　の　内　容	敷　地　面　積	22,588.03㎡
	構　　造	鉄筋コンクリート造 地上2階地下1階建
	内　　容	温水プール、トレーニングルーム、スタジオ、会議室
開　館　（　所　）　日	休館日（毎週水曜）及び年末年始（12月29日～1月3日）を除く毎日	
開　館　（　所　）　時　間	平日：午前9時から午後9時まで 日・祝日：午前11時から午後7時まで	
指定管理者が行う業務の範囲	1、施設全体の管理運営業務 2、施設の使用許可申請の受付及び許可並びに利用料金の収受に関する業務 3、施設の使用制限及び入場の拒否等に関する業務 4、施設の機械設備操作・日常点検業務 5、施設・設備、物品及び敷地の維持管理業務 6、その他施設の管理運営業務に関して宮城県教育委員会が必要と認める業務	
利　用　料　金　制	採 用 の 有 無	■ 有　□ 無
	利用料金の名称	施設利用料金

4. 施設利用実績【施設所管課記入（太枠内は指定管理者記入）】

(1) 開館(所)日数及び利用者数

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度（令和7年度） (A)	前 年 度（令和6年度） (B)	評価対象年度（令和7年度） (C)		
開館(所)日数	308 日	307 日	306 日	99.4%	99.7%
延べ利用者数	25,169 人	7,795 人	33,634 人	133.6%	431.5%

※ 対象施設が複数ある場合は施設ごとに記入

(2) 延べ利用者数の内訳

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度（令和7年度） (A)	前 年 度（令和6年度） (B)	評価対象年度（令和7年度） (C)		
プール	19,305 人	0 人	27,555 人	142.7%	-
トレーニングジム・スタジオ	5,779 人	7,690 人	5,872 人	101.6%	76.4%
会議室	85 人	105 人	207 人	243.5%	197.1%
合　　計	25,169 人	7,795 人	33,634 人	133.6%	431.5%

5. 管理運営収支実績【施設所管課記入（太枠内は指定管理者記入）】

(1) 収入

（単位：千円、％）

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度（令和7年度） (A)	前 年 度（令和6年度） (B)	評価対象年度（令和7年度） (C)		
県指定管理料	30,600	30,600	30,600	100.0%	100.0%
利用料金収入	11,010	1,130	7,404	67.2%	655.2%
その他	28,647	36,289	28,558	99.7%	78.7%
収 入 計 (a)	70,257	68,019	66,562	94.7%	97.9%

(2) 支出

人件費	24,308	24,132	28,971	119.2%	120.1%
施設管理費	36,378	20,603	37,182	102.2%	180.5%
事業運営費	2,210	2,774	2,008	90.9%	72.4%
その他	16,446	14,117	16,926	102.9%	119.9%
支 出 計 (b)	79,342	61,626	85,087	107.2%	138.1%

(3) 収支

収　支 (c)=(a)-(b)	-9,085	6,393	-18,525	203.9%	-289.8%
前期繰越収支差額	0	0	0	-	-
次期繰越収支差額	0	0	0	-	-

※ 自主事業を実施している場合は、上記に準じて、自主事業の収支実績を別掲

5. 自主事業収支実績【施設所管課記入(太枠内は指定管理者記入)】

(1) 収入　　(単位:千円、%)

項　　目	事業計画	実　績		対計画比 (C)/(A)	対前年度比 (C)/(B)
	評価対象年度 (令和7年度) (A)	前　年　度 (令和6年度) (B)	評価対象年度 (令和7年度) (C)		
自主事業収入	28,647	8,375	24,771	86.5%	295.8%
その他	0	168	663	-	394.6%
収 入 計 (a)	28,647	8,543	25,434	88.8%	297.7%

(2) 支出

人件費	12,530	12,750	13,085	104.4%	102.6%
事業運営費	3,431	1,024	3,067	89.4%	299.5%
販売品仕入	55	12	335	609.1%	2791.7%
諸経費	430	332	439	102.1%	132.2%
支 出 計 (b)	16,446	14,118	16,926	102.9%	119.9%

(3) 収支

収　支 (c)=(a)-(b)	12,201	-5,575	8,508	69.7%	-152.6%
前期繰越収支差額				-	-
次期繰越収支差額				-	-

6. 評価対象年度（令和7年度）の管理運営評価【指定管理者・施設所管課記入】

主な視点	項　目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	評価	県の評価 【施設所管課記入】	評価
経済性	施設・設備の維持管理業務の実施	・プール再開に向け各設備の立ち上げ、プール水張り及び昇温を適切におこなった。 ・年間計画により、設備保守管理委託業者と緻密な連携により施設設備の維持管理を実施した。 ・年次保守点検の可動床、ろ過装置、水球計時機器の設備点検を実施した。 ・職員による日常設備点検、プール水質管理を実施した。	・前年度の改修工事を経て、各更新設備を連結させ再開に備えた。更新設備は日常目視点検、毎月の保守点検、更に年次点検を適切に実施した。不具合箇所は早期発見に努めた。 ・強風による屋根修繕、プール温風ダクト固定金具劣化の調査及び応急修繕については、利用者負担を最小限に留めた対応となった。	A	日常的な保守点検はもとより、施設・設備等の不具合の際には、県との迅速な情報共有が図られている。 また、敷地内の植栽等を長期的に維持管理しやすいように剪定や整備を行っているほか、施設の劣化を迅速に修繕対応するなど、施設復旧後の施設管理を適切に行っている。	S
	収支実績	・前記『5管理運営収支実績』の通り。	・収入66,562千円は対計画比94.7%、対前年比97.9%(原油価格及び人件費高騰対策補填金を含む)。支出85,087千円は対計画比107.2%、対前年比138.1%。収支は−18,525千円。団体利用、競技会による減免を受け、利用料単価は低い傾向となり収入は伸び悩んだ。また人件費上昇等も収益減の要因となった。	B	コロナ禍となった令和2年度以降、感染症対策や施設復旧のため、令和7年3月にようやく通常営業ができた状況下で、プール利用者数が計画を上回る状況であったものの、利用料金収入が計画値の2/3程度にとどまるなど、計画よりも収入は伸びなかった。 また、人件費、原油価格等高騰の影響で支出が増大した結果、赤字額も計画値を上回ることとなった。	B
効率性	管理運営体制	・プール営業再開に備え、職員の新規採用を進めた。繁忙期には監視員を増員し対応した。 ・監視、受付、巡回、清掃の各管理業務について、適性に応じ配置した。	・プール営業を通年において確実に管理できる人員体制を整え配置した。 ・職員の適性を考慮し、複数業務に従事できる職員育成に注力した。 ・就業シフトを適切に管理し、突発的な事象にも運営へ支障が及ばないよう対応した。	A	令和7年3月以降の通常営業再開に対応するための人員確保を進め、人員配置等も適切に行い、効果的な管理運営体制が図られている。	A
	人員体制	正規　3 人　非正規　18 人				
	運営業務（ソフト事業等）の実施	・プール再開に伴い、4月より受付職員の増員と育成を進めた。 ・既存団体利用、新規団体利用、自主事業利用、競技会利用と一般利用者のレーン配分の設定に配慮した。	・プール再開に伴い、特に4月から上半期において職員増にて利用者対応を進めた。新規利用や、運動が久しい等、様々なリスクの軽減のため職員配置を可能な限り充実させた。 ・水球競技利用を優先としながら、新規団体利用、既存団体、一般利用者、自主事業利用の日程やレーンの配分を仔細に調整し、円滑な運営ができた。	A	プール営業の再開に伴う人員増によって業務運営の適正化に努めるとともに、特性に応じた利用者対応を行った。 また、前年度に比べ4倍を超える利用者数となった中でも、利用日程や水泳レーンの管理なども適切に行い、利用者の目線に立った運営ができた。	A
有効性	利用実績	・前記『4施設利用実績』の通り。	・延べ利用者数33,634人、対計画比133.6%、対前年比 431.5%となった。プール再開に伴い無料イベント参加や、無料開放日を増やしたことから利用者の増加が見られた。延べ利用者数には団体利用分も含まれている。	A	子どもを対象とした水泳・体操教室、フィットネススタジオなどの開催により利用者増を図ったほか、中学校の水泳授業の受け入れなども行った。	A
	利用者サービスの向上	・接遇マナー研修を年2回実施した。 ・リニューアルオープンとして、無料開放日の拡充、元競泳オリンピアン招聘による泳法レッスン、全利用者向けのプログラム実施、無料プログラム体験会等を実施した。 ・館内情報掲示板を整理し、適切な情報掲示をおこなった。また、HP、Google Map、メール配信、柴田町広報誌等を通じ、適宜情報発信をおこなった。	利用者に分かりやすく丁寧な案内等、研修を進め、その提供に努めた。また、利用エリアの美化と整備を進め、老朽化したトレーニングマシンのメンテナンス、トレーニング機器やキッズスクール備品の更新を計画的に進めた。その他、トイレ温水シャワーへの交換を随時進め、利用者サービス向上に努めた。	A	通常営業再開に伴う人員増に対応する研修が必要であった中で、接遇マナーなど利用者の目線に立った研修を実施したほか、利用者に対する丁寧な説明や機器のメンテナンスなど、利用者のサービス向上に努めた。	A
	利用者の苦情、要望等の把握とその反映	・苦情、要望等はスタッフ、ご意見箱、HPからの弊社カスタマーサービスを通じ、把握に努めた。 ・プール利用時のルールやマナーは初回利用時における説明を徹底し、安全管理に繋げた。	・苦情、要望をいただくことは少なく、施設設備がここ数年のプール休業の状況を踏まえて、安定した開館に対し感謝されるお声は多くいただいた。 ・団体利用、一般利用のすみ分けを明確におこない、初回来館時の利用案内を適切におこなうことで、想定されるトラブルを未然に防いだ。	A	通常営業再開後の安定した対応により、苦情が少なく、利用者の要望に応えた対応を行っている	A
その他	県民の平等利用	・県民どなたでも等しく利用できる環境として、常連や一部団体のみが優遇されることがないよう、団体の利用配慮、運動エリアにおける場所取り等には特に留意した。 ・HPを通じ、施設案内、設備状況、利用料金等は分かりやすく掲示した。	・団体利用においては、施設特性から水球競技を優先しながらも、各種団体、中学校授業利用、部活動のレーン調整には特に配慮した。利用者の要望を最大限実現し、一般利用者との適切なレーン分配ができた。 ・施設案内、利用料金はHP、館内において情報が確実に伝わるよう設定した。	A	貸切利用の予約状況など、適時HPからの情報発信に努めている。 既存の施設を有効に活用し、利用者の個別の状況に応じ、弾力的に対応している。	A
	安全対策	・職員の出勤時にはCPR・AED訓練を徹底し、年2回の消防避難訓練を実施した。 ・新たに熊対策について職員研修を実施した。 ・自主事業スクールバス降車忘れ確認を徹底した。 ・毎時、館内巡回をおこない不審者、体調不良者、設備故障箇所の早期発見に努めた。	・職員のCPR・AED訓練は確実に実施し、消防避難訓練は柴田消防署より水消火器を借り受け訓練に励んだ。熊対策として、自動ドアの手動化、爆竹等訓練を実施した。 ・利用者の健康状況を来館時の職員チェック、血圧測定の推奨、毎時定期巡回による利用者の動向や体調確認に配慮した。	A	CPR（心肺蘇生法）トレーニングやAED訓練等の人命救助に関する職員の研修を充実させているほか、近年の熊への対応に関する施設運営、利用者の健康状況チェックを行うなど、緊急時に備えた取組が充実している。	S

主な視点	項　　目	事業実績 【指定管理者記入】	指定管理者の自己評価 【指定管理者記入】	評価	県の評価 【施設所管課記入】	評価
その他	個人情報の保護	・個人情報保護、コンプライアンスに関する研修を定期的に実施した。 ・個人情報へのアクセスにはパスワードを設定し、必要書類の書庫、金庫管理には都度施錠にて情報管理をおこなった。	・弊社e-ラーニングによる個人情報保護及びコンプライアンスに関する研修を全職員が受講した。理解度確認テストは全項目合格を必須条件として全員が合格した。 ・個人情報へは限られた職員が一定の手順を踏まえてアクセスすることで、情報漏洩のリスクを可能な限り抑制した。	A	近年の情報漏洩の危険性を踏まえ、コンプライアンス研修による職員教育や個人情報のアクセス権を限定する対応等により、情報の漏えい、き損及び滅失の防止に努めている。	A
	自主事業の実施	・成人会員制プログラムをプール、スタジオ、ジムエリアにてそれぞれ実施した。 ・一般利用者も参加可能なジムエリアプログラムを実施した。 ・キッズスクールは、水泳、体育。チアダンスを実施した。 ・定期的なキッズスクール体験教室、季節イベントを実施した。	・成人向けプールプログラムは需要が高く、特に膝や腰に問題を抱える方には必須のものと感じた。スタジオプログラムには新たなインストラクターによるダンスが好評を博したことから、今後も人材発掘に注力する。 ・キッズスクールは大幅な会員減からスタートしたが、地域の需要は高く、入会が堅調だった。	S	子供向けの教室などによる競技普及、成人向けプログラムで地域の利用者の健康増進を図るなど、営業再開後の利用者増に向けた取組は好評であり、施設の利用者数が目標値を上回る要因となった。	S
	その他の取組	・柴田町3中学校水泳授業利用 ・柴田町水中運動教室利用、指導 ・柴田町各種お祭りへチアダンスチーム参加 ・弊社キッズ体操競技会へ参加 ・敷地植栽の整備、維持管理	・柴田町教育総務課と連携し中学校水泳授業利用、成人水中運動教室利用及び指導を実施し、役場との良好な関係を継続した。 ・柴田町ふくし祭りの際には砂利駐車場を貸出し、ループバス送迎拠点として協力した。 ・弊社キッズ体操競技会に継続参加し施設PRを進めた。 ・植栽管理により施設景観の向上、熊対策としても整備を進めた。	A	町の事業に協力し、地域活動に参加するなど、地域住民に開かれた施設として積極的にPRしている。また、長期にわたって敷地内に自生していた雑草や木を伐採除去し、施設の美化に努めたほか、熊対策など近年の安全管理に向けた取組も幅広く行っている。	S
総合評価			前年度の大規模改修工事を経てプール再開、通年での営業に至った。プール休業中に離れた利用者、自主事業会員の呼び戻しは順調に進んだが、延べ利用者数に対して収入は苦戦した。安全管理のため監視、サービス提供、研修に注力したが、人件費高騰による収支への影響も大きかった。次年度もさらに適切な設備及び人員管理をおこない、利用者の満足度を高める運営に努める。	A	通常営業を数年ぶりに1年間を通して実施したが、人員配置や施設管理を適正に行いながら、着実に利用者増につなげる取組を行っており、堅実な運営を行っている。 こうした取組を継続しながら、今後は、収入増加や人件費・物価高騰への対応などについて、指定管理者と連携して取り組む必要がある。	A

【指定管理者が行う自己評価の基準(目安)】

評　価	評　価　の　考　え　方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営を行った。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営を行った。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われなかった。大いに改善努力が必要である。

【県が行う評価の基準(目安)】

評　価	評　価　の　考　え　方
S	年度事業計画書等の内容を上回る実績であり、優れた管理運営が行われた。
A	年度事業計画書等の内容と同程度の実績であり、適正な管理運営が行われた。
B	年度事業計画書等の内容を下回る実績であり、さらなる工夫・改善が必要である。
C	年度事業計画書等に基づく管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善努力が必要である。

7. 施設管理運営の課題等【指定管理者・施設所管課記入】

項　　目	指定管理者 【指定管理者記入】	県 【施設所管課記入】
管理運営の課題等	指定管理期間4年目を終え、通年においてプール営業ができたことに感謝申し上げます。利用者には直接目に触れることはありませんが、施設運営の根本的なプール設備機能の更新により、安定した運営に至りました。今後も適切な更新のため設備の現状把握を進めます。課題として利用者が直接目に触れ、使用する設備の計画的な修繕や更新が必須と考えます。利用者導線の床面、プールサイドタイル、更衣室の床材等の劣化も進捗しているため、可能な箇所は適宜修繕を進めます。また、運営システムのDX化も利用者より求めれているところです。アナログ式の接客サービスの更新に伴い、対応職員の研修と確保も必要となるため、高齢化が進む職員の再構築を進めます。施設の利便性の向上が利用者増加へつながるよう運営の充実を図ります。	コロナ禍以降、R6年度まで1年間を通した通常営業ができずに利用者が減少したため、利用者数をどのように増やしていくかが課題となっているほか、近年の人件費・物価高騰の影響が大きく、計画時点よりも赤字額が拡大するほど支出が増大している。 また、水、塩素を扱う関係で設備の劣化も進んでおり、老朽化対策も必要となっている。 収入の増加に向けて令和8年4月より利用料金の改定を行っているが、引き続き、指定管理者と連携しながら、必要な対策・支援を講じていきたい。